

SNS を利用した外国語学習についての一考察

野 崎 翔 子

1. はじめに

外国語学習には様々な方法がある。筆者はイギリスでのホームステイや台湾の学生との交流会活動などを経験して、世界中の友人達と繋がることの出来る様々なソーシャル・ネットワーキング・サービス（以下 SNS）を始めた。SNS は、インターネット上で友人関係を構築し相互交流を行う場である。参加者一人ひとりが自分のページを持ち、プロフィールや日記、写真など自由に書き込み、友人とコメントを交換し合うことができる。筆者は SNS を利用することにより、友人の日常が簡単に知ることができるようになった他、英語や中国語で書かれている友人の記事を読もうとするため、外国語学習のひとつのツールになっているとも感じた。また、日本語を学習中の友人は SNS を通して、筆者に日本語の文法を聞いてくることもある。

SNS を利用し、学習言語話者と接触を図ることで、SNS 利用者は外国語を読み、書き、そして異文化を吸収できる。そこで筆者は、SNS の利用というのが、言語を効果的に学習するための方法、行動である学習ストラテジーと関係があるのではないかと考えた。SNS を利用することで、具体的にどのような学習ストラテジーが関係しているのか、実際に SNS を利用していく過程で学習者に成長はみられるのか、SNS を利用した外国語学習の短所、長所とは何なのかといった点を明らかにすることを研究の目的とする。

2. 調査概要

2.1. 調査目的・調査対象者

本調査では、SNS を利用することが外国語学習にどのように関わっているのかを、以下の 2 つの観点から考察する。

- (1) SNS の利用において、具体的にどのような学習ストラテジーが働いているのか。
- (2) 実際に SNS を利用していく過程で学習意欲や日本語運用能力といったことに関して、学習者に変化はみられるのか。

上記 2 点を明らかにするために、SNS のひとつである facebook を利用している日本

語学習者 3 名を対象に、インタビュー調査と facebook の記事分析調査を行った。facebook は調査時点において、利用数が世界最大の SNS である。調査対象者は全員以前から筆者の友人であり、SNS において、母語以外での言語で記事を書いている。3 名の調査対象者のプロフィールは以下の通りである。

表 1 調査対象者プロフィール

対象者	性別	母語	日本語学習歴	facebook 利用年数
A	女	中国語	4 年	1 年
B	男	ドイツ語	5 年	3 年
C	男	中国語	4 年	2 年

2.2. 調査方法

2.2.1 インタビュー調査

平成23年9月上旬と10月中旬にインタビュー調査を対面形式とスカイプ上での対話形式の2種類により実施した。使用言語は日本語である。インタビュー内容は事前に準備したが、すべての項目を順に問うというわけではなく、調査対象者が自由に答えられるように配慮した上で、項目の中のいくつかを質問した。事前に準備したインタビュー内容の中で、3名に共通して質問した項目は次の通りである。

I. SNS 利用（発信）について

- ・日本語の記事を書いている理由は何か、母語と日本語の記事の使い分けの基準は。
- ・辞書を使って書いているか。使わない場合、以前は使っていたか。

II. SNS 利用（受信）について

- ・日本人が書いている内容で分からないものがあつたらどうしているか。
- ・友人の記事から、その国で流行している文化を知った経験はあるか。

III. 学習者の言語学習における性格について

- ・漢字や文法の使い方を間違えたくないと思うか。
- ・新しく覚えたことばを使ってみようとチャレンジすることについて、どう思うか。

インタビュー内容をテープレコーダーに録音し、それを文字化したものをデータとして調査対象者がどのような方法で SNS を利用しているのか、SNS の利用においてどのような学習ストラテジーを用いているか、さらに SNS 利用に限定せず 3 名の調査対象者がどのような一般的傾向をもった人であるか分析を行った。学習ストラテジーの分析にあたっては、Oxford (1990) の「記憶ストラテジー」「認知ストラテジー」「補償ストラテジー」「メタ認知ストラテジー」「社会的ストラテジー」の 6 つのストラテジーの分類を使用した。

2.2.2 SNS の記事分析調査

調査対象者 3 名が SNS 上に書き込んだ記事を書き起こし、①使用言語 ②日本語運用能力の伸びという 2 つの観点から、SNS を利用することが外国語学習にどのように関わっているのかを考察する。まず①使用言語に関しては、月ごとに、日本語の記事、母語の記事、日本語と母語の両方で書かれた記事、それぞれの全記事数における割合を調べ、記事の言語割合がどのように変化しているかをみる。②日本語運用能力の伸びに関しては、対象者の記事内容を時系列で観察し、文章の複雑さに変化はみられるか、助詞や接続詞の使い方などに変化はみられるか、文章量や日本語の言い回しに変化はみられるかなどの観点から分析する。これら①②により、SNS を利用していく過程で学習意欲や動機付けの要因、日本語運用能力などに関して学習者に変化がみられるかを調べる。

本稿では、これらの点に焦点を当てることで、どのような利用法をしている人にとって、SNS が外国語学習のツールになりやすいのか、SNS を利用することが外国語学習においてどのような役割をもつのかを考える。

3. 調査結果と考察

3.1. SNS 利用者の外国語学習行動

3.1.1 インタビュー調査の分析・考察

【A のインタビュー】

日本語を学習し始めたのは、大学で日本語学科に所属してからであるが、もともと日本のドラマや漫画、アニメが大好きで、日本語を本格的に学習し始める前から日本に対して強く興味をもっていた。大学入学後も日本語学習に意欲的に取り組んでいる。

facebook では、日本語と母語両方でひとつの記事を書くことが多い（記事 a-1 参照）。

レポートはやっと最後のひとつだけ、今やる気全然ない(╯_╰)遊びにいきたいなあ————

報告終於剩下最後一個，但是現在完全沒幹勁(╯_╰)。好像出去玩~~~~~

ひとつの記事をまず日本語で書いた後、母語である中国語の翻訳を書く。その際、自分の持っている情報を外国語で発信することになるが、日本語の表現の仕方で見分らない箇所があると、その都度様々な参考書を使うようにしている。これをほぼ毎日行っている。さらに、日本語で書かれた日本人の記事や自分の記事に対してのコメントも、できる限りすべて読むようにしている。SNS 上での日本人の友人は、年齢の近い人ばかりなので、日本で流行している同世代の若者文化も、SNS から知ることが多い。日本に留学してからは、mixi にも登録した。mixi には日本の友人しかいないので、自分で記事を書くのも友人の記事を読むのも、すべて日本語である。学習言語である日本語のみの記事であるが、友人の日記を読み、写真を見て近況を知ることができるのは、とても面白い。

多くの友人の記事を一つひとつじっくり読むわけではないが、たくさんある記事を流し読み、気になったものやコメントをくれた人には、何かしら返答をするようにしている。また、日本人の友人の記事を読むことによって、新しい単語や顔文字、日本で流行しているサブカルチャー、日本の若者ことば、さらには関西弁を覚えた。分からないことばの使い方や言い回しなどを見つけたら、辞書で調べるようにしている。

現在、奈良県の大学に1年間の短期留学中であるため、周りは関西弁を使う人で溢れている。初めは聞き慣れなかったが、次第に慣れてきた現在では、SNS 上でも友人と関西弁のやり取りをすることが稀ではない。関西弁特有の会話のキャッチボールの仕方、ユーモアのセンスを、SNS でのコミュニケーションから習得することが多い。日本に留学をしたり、日台4大学合同の交流活動に参加してみたり、積極的に日本人と交流を図るようにしている。

【A のインタビュー考察】

A は漫画やアニメといった日本のサブカルチャーに強い関心を示しているが、漫画やアニメの絵と登場人物の発話を結び付けて理解することは、記憶ストラテジーのイメージや音を結びつけることに当てはまると考えられる。また記事 a-1 のように、母語と学習言語である日本語によって同じ内容の文章をひとつの記事の中でまとめるという作業

は、言語を対照しながら分析し訳していることから、認知ストラテジーを用いていると考えられる。その際、様々な参考書を使うということであるが、これは情報内容を受け取ったり送ったりするために様々な資料を使用することであり、認知ストラテジーの使用といえる。また、SNS から同世代の若者文化について学ぶことが多いと述べているが、これは人との関わりの中で、他の人々の考え方や感情を知ることによって学ぶという社会的ストラテジーを使用していると考えられる。A は記事 a-1 のようなアウトプットをほぼ毎日行っているので、確実に日本語で表現することの練習になっている。さらに、日本語で書かれた日本人の記事や自分の記事に対してのコメントを読むことで、相手の意図を掴み、他人の表現方法や価値観を知ると考えられる。読解において、文章全体の概要を掴む目的で素早く読むスキミングや、特定の情報や事項を探して読むスキニングが言語学習には効果的だと言われている。日本語で書かれた SNS の内容をさっと流し読んで、自分に必要な情報を掴むという、目標言語でのスキミングやスキニングが求められる SNS の利用は、受け取った情報内容から相手の意図を素早く掴むという認知ストラテジーを身に付けることに繋がっていると考えられる。

さらに、SNS 利用に限定しない A の一般的傾向として、日本への留学や日台4大学合同の交流活動に積極的に参加しており、外国語に堪能な母語話者や学習者同士協力して活動を行う、社会的ストラテジーを用いているといえる。

【B のインタビュー】

母語はドイツ語で、出身国であるスイスの4つの公用語のうち、ドイツ語、フランス語の会話と読み書きができる。中学校から勉強を始めた英語と5年前に学習し始めた日本語を合わせて、計4つの言語を理解できる。日本で就職するつもりで来日し、愛知県にある日本語学校に入学した。当時は日本語学校の寮に住んでいたため、24時間日本語に浸る生活となった。現在、日本にある外資系企業で働いているため、英語と日本語を日常的に使っている。英語は生活、仕事においてほとんど支障がないレベルであるが、日本語はまだ勉強が必要だと感じている。そのため、社内でも意識的に日本人とコミュニケーションをとり、積極的に日本語を使うようにしている。

facebook では日本語のみの記事を書く場合が多い。今は日本に住んでいるため、日本語ができる友達に自分の近況を知らせたいためである。外国語学習はその言語にできるだけ浸る方が良いと考えている。そのため、できるだけ何でも日本語にした方が良くない、時間のある時は友人の記事だけでなく、SNS 上に掲載される日本語のニュースも

読んでいる。日本語の記事を書くことが多いが、記事の内容によって使う言語を変えている。2011年3月11日の東日本大地震の時には、自身の安全を知らせるために日本語、英語、母語であるドイツ語の3ヶ国語で自分の状況を発信した。記事 b-1 のように、大切な報告は知らせたい人の使用言語に合わせて変えている。

記事 b-1 (2011 年 3 月 11 日 21:56)

Already leaving the building from the 24th floor, before it was said we could return...

みんな、いろんなメールやメッセージをくれて、あいがとう。大丈夫。ウィーさんのところに止まれる。他の人のために折りましょう。

Hallo, vielen Dank fuer alle Meldungen und Mails. Mir geht es gut, leider gibt es viele Leute in den Kuestenregionen die viel staerker betroffen sind.

facebook を通して、日本語の自然な会話の言い回しや男性的な日本語の使い方を学んだ。例えば、日本語学校で使っていたテキストには「これは何ですか」と載っていたが、facebook を通して「これ、何」といった、口語的な言い回しを覚えていった。男性的な日本語の使い方に関しても、日本人の男友達が SNS 上で書き込む喋り口調から、次第に男性的な言い回しを覚えていった。また facebook に記事を書く時は、ひとつの記事にあまり時間をかけず、思いつくままに日本語で表現している。そのため、普段は辞書を使うことはほとんどないが、大切なメッセージを送る場合は、辞書を使ったり他者に聞いたりして、正確な日本語を使用するように心掛けている。

【B のインタビュー考察】

まず筆者が B と話していて感じることは、B が日本文化的なユーモアを持ち合わせているということだ。他者とのコミュニケーションの中での反応の仕方、ユーモアのセンスというのは、個々の育ってきた環境によって異なる。使える日本語、日本文化、日本に順応したユーモアのセンスを B は身に付けていると感じる。現在、日本にある外資系企業で働いている B は、社内でも意識的に日本人とコミュニケーションをとり、英語に比べて苦手意識のある日本語を積極的に使うようにしているということで、普段の生活でも外国語に堪能な人と協力するという社会的戦略を活用している。

SNS 上においても、B は日本語でのアウトプットを積極的に行っている。他人の言語行動を見て分からないことがあったら質問し、真似して使ってみるという行動から、連

想し十分に練ることで文脈の中に新しい語を入れる記憶ストラテジーや、相手に質問をして理解を明確化させる社会的ストラテジーを使用していることが分かる。

【C のインタビュー】

台湾の大学4年生で、国際関係学専攻のため日本語とは関係なかったが、日本の大学を卒業した母の影響で、大学入学と同時に日本語を勉強し始めた。

facebook では本名ではなく、日本名で登録している。この日本名は日本語クラスの時に使っている名前である。日本名で登録していると、日本人が友達申請をしてくれて、そこから交友関係が広がっていく。多くの友人を作るために、そのような利用法をしている。さらに、こうしてできた友達と実際に会い、自分の国を案内したり相手の国を案内してもらったりしている。相手と実際に会う場合、会うまでの間に何度もメールやチャットで交流をし、お互いのことをよく知り合った上で会うようにしている（記事c-1参照）。

facebook を通して、日本の顔文字や若者言葉を学んだ。「～っす」や「～やねん」といった語尾をよく使うが、こういった表現は、日本人の友人が使っていたのを見て自身も使ってみようと思った。意味や表現の仕方が完全に理解できていない段階でも、新しく覚えた表現を積極的に使ってみている。使ってみて間違えてしまったら、指摘してくれる母語話者の友人がいる。友人から指摘されることを躊躇せず、間違いを恐れずに積極的に学習言語でのアウトプットを行うことが、外国語学習における秘訣だと考えている。

記事c-1（2010年6月21日19:38）

6月30～8月3日に東京にいるんだから、みんなに連絡しようと思っていますけど、よかったらぜひ電話で連絡しよう～★東京にいるん人はいつでもかけてもいいよ～一緒に遊ぼう～^^

I will stay in Tokyo this July to August 3th, please call me if you are over there or you miss me lol my number is .. 000-0000-0000

please call me anytime when you are free :)

日本人や他の国の友人の記事をしっかりと読み、彼らの記事に対するコメントもできるだけするようにしている。多くの記事を読み、たくさんの外国語に触れ、知識を吸収している。

【Cのインタビュー考察】

日本人の友人が使っている表現を見て、真似して使ってみることが多いということだが、これは決まった言い回しや文型を覚えて使う認知戦略であると考えられる。さらに、失敗や間違い、母語話者からの指摘を恐れず、新しい表現を適度に試みる冒険をするというSNS上におけるCの行動は、適度に冒険をするという情意戦略が働いていることが分かる。筆者自身、facebookに何か書き込みをすると、Cはいつも筆者の母語に合わせて日本語でコメントをくれる。こうしたやり取りの一つひとつが、Cにとっての外国語学習になっていると考える。

3.2. SNS 利用による外国語学習への影響

3.2.1. 記事内容分析

3.2.1.1. 使用言語

調査対象者3名の記事を時系列で観察する中で、使用言語に変化がみられるのではないかと疑問を抱いた。学習意欲が高まることで、学習行動は促進される。日本語を学習していく中で、学習意欲が高まり、学習言語でのアウトプットが増えてきているのではないか。ここでは調査対象者の記事がどの言語で書かれているか月ごとに数え、そこから割合を算出し、図1にまとめた。

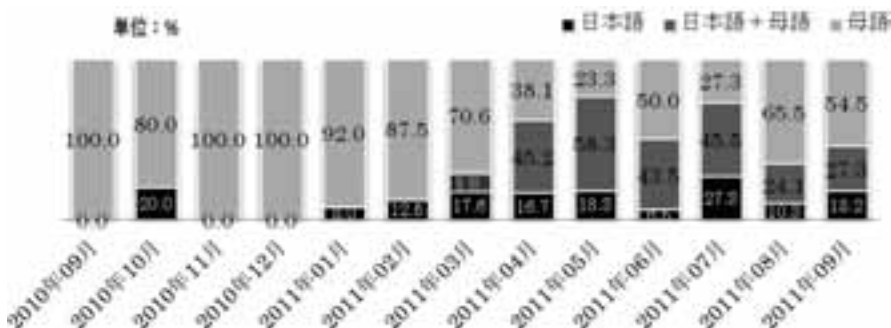


図1 Aの記事言語割合

Aの場合、2010年12月以前は母語による記事がほとんどだったが、2011年1月から次第に日本語を含む記事の割合が増加し、2011年4月からは半数以上の記事に日本語が含まれている。Aの場合、2011年4月から日本の大学に留学し日本人の友人が増えたため、その友人らにも記事の内容が理解できるように日本語で書いていると推測できる。

2011年8月は全体の34.4%、2011年9月は45.5%の記事に日本語が含まれている。母語でのアウトプットがほとんどだった2010年に比べ、日本語で書こうという学習意欲がAの中で上昇していることが伺える。

同様にB、Cの場合も月ごとの割合を算出し、グラフ化した(図1、3参照)。Bの場合、母語はドイツ語だが、英語で書かれた記事も多くみられた。今回は日本語による記事割合の増加を示すため、日本語とそれ以外の言語にまとめてグラフにした。過去約3年分の記事を見ると、次第に日本語を含む記事の割合が増えてきていることが分かる。2008年7月、9月、11月においては日本語を含む記事はなかったが、2009年3月以降、次第に日本語での記事の割合が増加し、2009年11月以降、日本語を含む記事がほぼ50%以上を占める。

Cの場合は、日本語だけでなく英語、ドイツ語、韓国語での記事もみられた。これらはCが現在、日本語の他に勉強している言語である。全体的に日本語と英語によるアウトプットが多いが、特徴的なのは、母語による発信が一切ないことだ。Cにとって、母語以外の言語すなわち学習言語でのアウトプットの場合、学習言語を母語にもつ人々と交友関係を作る場としてfacebookを利用しているのではないかと考える。コミュニケーションは外国語学習の目的であると同時に手段である。学習言語で自分の考えや気持ちを表現し、相手に伝える。相手と向き合い、お互いの意思や考えを伝え合う経験を通して、コミュニケーションの実感を得ると共に、自信が生まれる。それらが学習意欲の増進に繋がると考える。

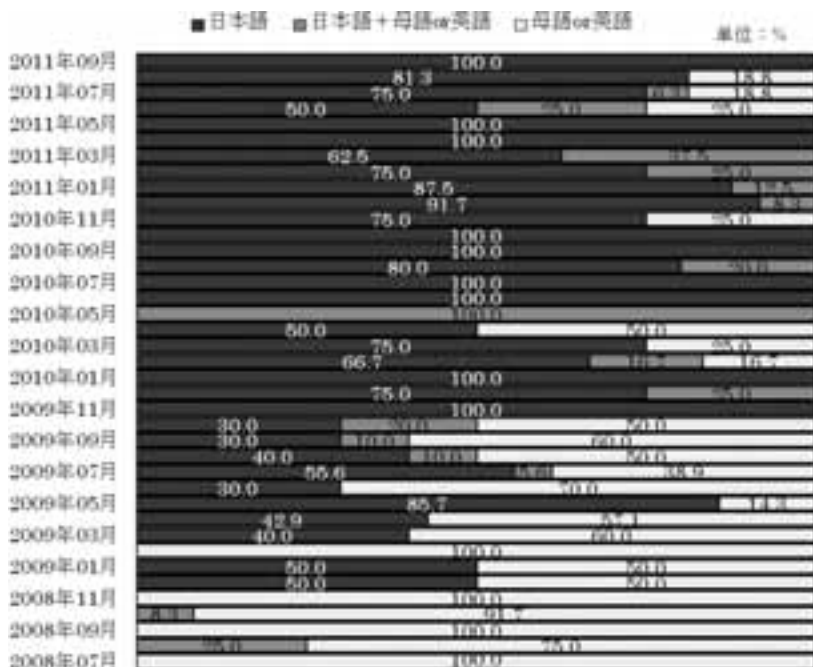


図2 Bの記事言語割合

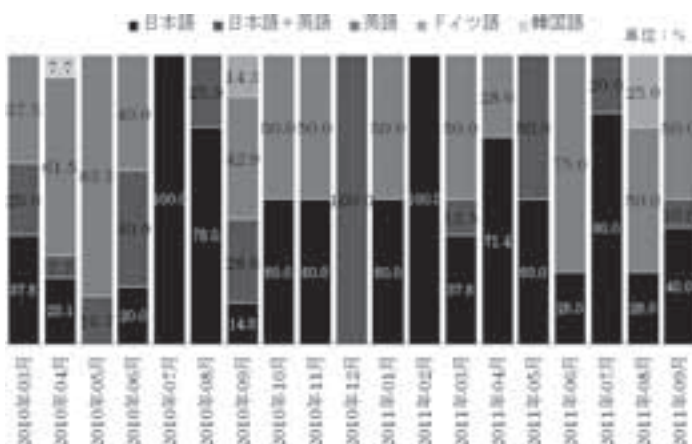


図3 Cの記事言語割合

3.2.1.2. 日本語使用の変化

A の記事を時系列で観察することによって気付いたことは、ひとつの記事における文章量の増加、単文だけでなく接続助詞を利用した複文が使えるようになってきていること、次第に助詞を正しく使えるようになってきていることなどである。

記事a-2 (2010 年 10 月 23 日 22:33)

だれですか

記事a-3 (2011 年 3 月 23 日 21:25)

ママが電話する時、台湾人は本当に「ご飯食べた？」よく言うねと思った、、、

記事a-4 (2011 年 4 月 7 日 17:01)

今奈良いまーす☆ネットまだできないので、学校のコンピュータ使ってる。

あとで携帯の申し込みで、softbank のやつ。奈良はもっと好きになってった!(^^)!

記事a-5 (2011 年 6 月 1 日 21:08)

今日は生け花の体験をした☆とても新鮮で面白かった(*^_^*)

いろいろな人に会って、私にとってすごく楽しい日だった♥

今天體驗了日本華道(花道)我覺得很新鮮也很有趣 見了很多, 對我而言是個快樂的一天♥

記事a-6 (2011 年 9 月 2 日 23:13)

ヤバイなあ一午後ちょっと寝ようと思ったけど、起きた時もう23時になってしまっていた(°o°)

今夜どうしようー絶対寝れへん。。。 糟糕啦!下午想說稍稍睡一下的, 起來的時候竟然已經晚上 11 點了

(°o°)今天晚上怎麼辦...絕對睡不著的阿...

記事 a-4 をみると、助詞の欠如と誤謬が目立つ。文脈から意味を推測することはできるが、「今奈良いまーす」という部分は、場所を示す格助詞「に」が欠如していることが分かる。さらに「ネットまだできない」は、題目の提示、強調、限定を表す係助詞の「は」が欠如している。「学校のコンピュータ使ってる」の部分は、動作の対象物を示す格助詞の「を」が欠如しており、「奈良はもっと好きに」の部分は、「は」ではなく対象物を表す格助詞「を」を使用すれば正しい文章になることが分かる。一方、記事 a-4 の時点では正しく使えていなかった「は」「を」「に」の助詞が、記事 a-5 では「今日は生け花の体験をした」「いろいろな人に会って」といったように適切に使用できている。

助詞の使用だけでなく、文章の構成にも変化がみられた。記事 a-2 の時点では、「だれですか」という非常に短い単文であった。記事 a-3、a-4、a-5 と時間が経つにつれて、次第に文章量が増えてきていることが分かる。記事 a-3 の時点では、文法に多少の間違

いはあるが、いつ、誰が、どうしたという、文章に必要な要素が含まれるようになって
いる。さらに記事 a-4、a-5では、好き、新鮮、楽しいといった自身の感情を表現する
ようになっていることが分かる。また記事 a-5、a-6では日本語と中国語でのアウト
プットとなり、日本語の表現も非常に豊かになっていることが分かる。いくつもの要素
を「～ので」「～けど」といった接続助詞で組み合わせた複文で表現できている。記事 a
-6の時点では「ヤバイ」「～へん」のような、若者言葉や方言なども使用されている。ま
た記事 a-4、a-5、a-6では、文字や記号から構成される、日本独自の顔文字の使用が
みられるようになってきた。こういった文章以外の点で、表現をより豊かに見せる技術
というものも A には身に付いてきていると考えられる。若者特有のことばの言い回し
などは、日本語の教科書には載っていない。SNS だからこそ学べる点であるといえる。

このような日本語能力の向上を支えている要因には、SNS の利用以外にも多くのこと
が関わっていると考えられる。しかし SNS を利用することが言語習得の一要因になっ
ていることも確かである。SNS における過去記事を観察することで、A の日本語能力の
成長を捉えることができた。

次に、B の記事を検討する。

記事b-3（2009年3月23日 3:51）

疲れた！

記事b-4（2009年7月25日 16:57）

富士山の天気は強すぎたので、八合目から行ってはいけなかった。いい経験なのにちょっと残念だな。

記事b-5（2010年9月21日 19:19）

みんな、応援してくれてありがとう！面接はうまく行ったと思う。内定をもらいそうな気がするけど、職場（沖縄）
についていろんな疑問があるから、それを考慮したほうがいい…

ちなみに、スーツを着て、新幹線に乗るのはなんとなくカッコいい感じ ^_^

記事b-6（2011年9月7日 15:23）

東京にもう半年間住んでよ！楽しい時間はやっぱり早いものだ～。

ヤマサの友達、同僚たち、新しいできた友達、今までいろいろありがとう！超楽しかった！これからもよろしく！

B の場合、記事 b-3 の時点では「疲れた」という一言であり、この時期は抜粋記事以外
も単文でのアウトプットがほとんどであった。記事 b-4 になると「～ので」という逆説
の接続助詞を使用することで、ふたつの文を組み合わせた複文で表現している。記事 b
-5 の時点では、複数の文をひとつの記事に書き込むようになっていることが分かる。こ

の頃から、Bも日本独自の顔文字を使用するようになってきている。日本人とのやり取りも、顔文字を使って感情を豊かに表現できると非常にスムーズである。記事b-6では「超楽しかった」とあるように、日本人の若者が使用するような言葉遣いも表現するようになってきている。若者ことばやメッセージを伝える相手に合わせた言葉遣いなど、多様なコミュニケーション場面に対応できるような、生きた日本語、バラエティに富んだ日本語能力が身に付いてきている。

続いて、Cの記事を検討する。

記事c-2 (2009年8月10日 22:43)

初心者からよろしく願います

記事c-3 (2010年3月26日 15:37)

なんでみんな彼女がいるん？ jealous~~ : (

記事c-4 (2010年4月28日 21:06)

確かに！超懐かしい！！本当にこの時に戻りたい～

この交流会に後から、毎日みんなに会いたんだよ、早くみんなに会いたいです

なんか何度聞いて(拝啓 十五の君へ)で泣けしまいます

記事c-5 (2011年9月15日 0:58)

やばい！風邪気味です！！><

Cの場合、初めの頃はいわゆる教科書の例文のような文章が多かったが、次第に気さくな表現を使用するようになってきている。記事c-2では「初心者からよろしく願います」とあるが、非常に堅い表現である印象を受ける。しかし記事c-3の時点になると、語尾に「～るん」といった表現がみられたり、記事c-4では「超懐かしい」という若者独特の強調表現がみられたりする。さらに記事c-5の時点では「やばい」という状況を表す表現をしているが、これも若者独特の日本語表現であるといえる。相手との親密度によっては、くだけた表現の方が、真意が伝わる場合もある。Cの使う若者言葉やネット用語、方言等の表現というのは、SNSを利用することによって表れてきたものだと考えられる。

4. まとめ

世界中の人が利用しているSNSで、学習言語を母語にもつ人と友人になることで、SNSにアクセスするたびに、その言語に触れることになる。様々な文化の中で話される

言葉を、口語体や若者言葉も含めて学べることから、SNS は新しい外国語学習のツールのひとつとなり得ると考える。効果的な利用方法としては、間違えを恐れずに積極的にアウトプットを行うこと、流し読みでも良いので学習言語の記事に毎日触れること、親しい友人に対し、できるだけコメントやメッセージ等の返答を行うことでコミュニケーションの輪を広げること、同世代の他国文化をたくさん吸収することで、視野を広げ興味の幅を広げること、興味の幅を広げることで学習意欲を高めること、これらを提案する。SNS は、教室での学習と現実世界での言語使用とのギャップを埋める最高の学習フィールドになるのではないだろうか。また外国語学習には、絶対的にこれが正しいというものは存在しない。いくつかの方法を組み合わせることで学習は促進され、その方法は自己で開拓していくしかない。数ある外国語学習法のひとつとして、筆者は SNS の利用を提案したい。

参考文献

- 磯田貴道 (2005) 「学習意欲や動機づけに関する概念の整理へ向けて」『広島外国語教育研究』 8 pp.85-96 (発行：広島大学外国語教育研究センター)
- 今村洋美・水野邦太郎 (2000) 「インタラクティブ・ライティング・コミュニティ (IWC) の開発と実践：英語コミュニケーション活動の促進をめざして」『国際関係学部紀要』 24 pp.145-164
- 岩本尚希 (2010) 「外国語学習者の学習継続要因に関する一考察：言語学習ヒストリーから」『桜美林言語教育論叢』 6 pp.29-43
- 英保すずな (2006) 「第二言語環境における学習ストラテジーの使用：自律的学習の実現をめざして」『関西外国語大学留学生別科日本語教育論集』 16 pp.99-110
- 江下雅之 (2007) 「SNS における日記コミュニケーションの研究：交流の契機としての日記」『目白大学文学・言語学研究』 3 pp.57-70
- 河合隼雄 (1967) 『ユング心理学入門』 培風館
- 川浦康至・坂田正樹・松田光恵 (2005) 「ソーシャルネットワーク・サービスの利用に関する調査：mixi ユーザの意識と行動」『コミュニケーション科学 (東京経済大学コミュニケーション学会)』 23 pp. 91-110
- 倉本充子 (1996) 「インターネット利用の英語教育：コミュニケーション・コンピテンスの開発を目指して (<コミュニケーション・スキルズ>)」『年会論文集』 12 pp.162-163
- 小柳かおる (2004) 『日本語教師のための新しい言語習得概論』 スリーエーネットワーク
- 小矢野哲夫 (2007) 「若者ことばと日本語教育」『日本語教育』 134号
- 林さと子 小西正恵 関麻由美 池上摩希子 島崎美登里 (2006) 『ことばを学ぶ 一人ひとりを理解

する 第二言語学習と個性』春風社

日本くるみ・Armstrong Elizabeth (2010)「関西外大-バックネル大学 Facebook プロジェクト
2009: Facebook を使った実践的コミュニケーションの試み」『研究論集』92 pp.171-184

山崎朝子 (2005)「学習者論— 学習者の個人差と第2言語学習—」『武蔵工業大学環境情報学部
紀要』6 pp.90-96

尹智鉉 (2011)「日本語学習者の第二言語習得と学習ストラテジー」『人文科学研究所研究紀要』
81 pp.35-58

Abstract

There are various ways of learning a foreign language. The author thinks that communicating with native speakers using social a networking service (SNS) is an effective foreign language learning technique. In this study, three Japanese learners, who write articles in Japanese using an SNS, were interviewed and their SNS writing for 1-3 years way analyzod from various perspectives. the data, revealed the relationship between using SNS and foreign language learning. By using SNS and communicating with native speakers SNS users can read and write in a foreign language and experience different cultures. In addition, SNS users might be more effective learners because they write in the foreign language without fear of making errors, come into contact with native speaker texts every day, even if for a short time, and absorb foreign culture from people of the same generation. It may also be said that SNS is an effective tool which can help people learn new vocabulary, including spoken language and slang. The author would like to suggest that SNS helps people learn foreign languages.